



株式会社ヒロハマ 社内報

<経営理念>

- 一、缶パーツとその関連技術を通じて、缶の社会貢献を全面的に支援しよう
- 一、一人一人の持つすべての能力を、共にベストの形で花開かせよう
- 一、現場で現物を見て現実を把握し、原理原則にのっとって対処しよう
- 一、お客様と我々自身に還元するために、一切のムリ・ムダ・ムラを無くして最大の利益を追求しよう
- 一、国内外を問わず、自らの可能性を追求し、仕事を通じて社会に貢献しよう

7月迄業績	計 画	実 績	差 異	%	昨 年 比	%	12 月迄成り行き	昨年度実績
売 上	273,593	272,213	-1,380	99.5%	16,626	106.5%	473,814 万円	443,782 万円
営業利益	13,853	23,039	9,186	166.3%	15,284	297.1%	35,556(7.50%)	15,200(3.43%)

<缶パーツ販売健闘／営業利益は年間目標到達>

大型連休は皆さん帰省やご旅行など楽しまれましたか。私も盆の間に新幹線で移動しましたが、ホームで歩く姿を「ZIP!」で捕らえられ、全国放送されるハプニング(?)もありました。
猛暑については未だに収まる気配がありません。引き続き、身体に変調を覚えたときは躊躇せずに必要な措置を行ってください。
さて、7月の業績ですが、売上は缶パーツ販売が健闘し計画未達ながらも 99.4%でまずまずの結果でした。営業利益は年初に計画していなかった経費計上があった為、計画には及ばなかったものの、2,632 万円を確保しました。これにより、7 月度で年間目標である 2 億 2,000 万円に到達することができました。皆さんがやるべきことを果たしてきた成果です。達成できたことに感謝申し上げます。

【全社品質目標の達成状況】

安全第一 労災事故 0 件：7 月度 0 件。累計 3 件。
品質クレーム：7 月度 は全社ゼロを記録し、これで 3 か月連続全社ゼロとなりました。全社年間 20 件以内に対し、累計 10 件。千葉 8 件(社内 1 件、社外 7 件)、大阪 2 件(社内 0 件、社外 2 件) 納期遅れ：なし。
7/11～7/28、ヒロハマ製品である EOE(イージーオープンエンド)を製造するアルトップいわき工場の生産プレス 1 台が停止しました。この緊急事態にヒロハマ、アルトップ一丸となり手段を尽くし、可能な限り最短で復旧することができました。関係各位に感謝申し上げます。
コストダウン：7 月迄累計 計画 3290⇒実績 5063(153%)
新規品売上：7 月迄累計 東宮 4785⇒4050(84%)
大宮 990⇒1694(171%) ※万円
稼働率：7 月迄累計 千工 目標 81% ⇒ 実績 80.1%
大工 目標 80% ⇒ 実績 79.6%

7月単月 単位:万円	売 上		営業利益		営業利益累計	
	計 画	実 績	計 画	実 績	計 画	実 績
東京営業所	27,530	26,881	1,499	1,392	8,435	9,389
千葉工場	24,671	23,605	1,188	535	3,108	7,829
大阪営業所	15,880	16,290	690	766	2,786	4,099
大阪工場	12,626	12,838	15	-61	-476	1,722
全 社	43,410	43,171	3,392	2,632	13,853	23,039

<9 月予定>

- 9 月 1 日(月) 千葉管理職・災害伝言ダイヤル訓練
- 9 月 5 日(金) 関西ペイント様 ヒロハマ千葉工場監査 (#50P キャップ採用に伴い)
- 9 月 8 日(月) 大阪昼礼、大阪生販合同会議
- 9 月 11 日(木) 三咲神明宮月次祭(千葉)
- 9 月 12 日(金) 東京千葉永年勤続表彰
千葉昼礼、東京千葉生販合同会議
- 9 月 16 日(火) PS 八街経営会議
- 9 月 17 日(水) アルトップ月次会議
- 9 月 24 日(水) JQA 定期審査 初日
- 9 月 25 日(木) JQA 定期審査 二日目
- 9 月 26 日(金) JQA 定期審査 最終日 AM 終了
※予定を変更する場合がありますのでご了承ください。

<歩いて健康増進／鉄二けんぽの新たなイベント>

これまで鉄二で行っていた「身体活動量計」を用いたイベントが終了となり、後継としてスマホのアプリ「あること」を用いたイベントが始まります。ヒロハマでは健康経営の基本方針にのっとり、後継イベントへも参加することとしました。9 月の昼礼時にアナウンスします。

8/29 廣瀨 庄一郎

「失敗学」から学ぶ>(11)

【(5)ミスを通して「学習力」をつける方法】

ここまで「個人のミスや失敗の原因」の 4 つ(計画不良・学習不足・伝達不良・注意不足)を分類別にみて、最初の「計画不良」を説明してきました。ここからは、その二つ目「学習不足」に入ります。

「学習不足」は「学習機会欠如」「学習内容忘却」「応用力不足」「学習意欲欠如」に分解できます。

1)「学習機会欠如」

最初は「学習機会欠如」で、これは文字通り、「学習するチャンスがなかったから、学ばなかった。知らなかった」という事象です。

リーダーが大事なことを話しているときに、来訪者があって、離席中に重要なことが決まっていた。そんなちょっとしたことが要因となって、ビジネスにおける「学習機会欠如」は起こり得ます。こうしたケースの場合には、それが起きないように

な「仕組み」をつくることで、比較的簡単に解決することが出来ます。解決が難しいのは「考え方の抜け」です。典型的に起こる現象としては、「他の人が皆できることを、ある人だけ決まってミスをする」ということです。いくら注意しても同じ間違いが繰り返されたり、少し形が変わっただけで再び間違えるようになった場合には「学習機会欠如」です。

本書では、ミスや失敗に対しては客観的に分析することを勧めてきましたが、自身のミスの分析を習慣として続けていると、「こういときにミスしやすい」という傾向が見えてきます。その傾向の先に、自身の学習機会欠如が隠れている可能性があります。自分のミスの傾向に気づいたら、そのミスをしない人を捕まえて、手順の確認(学習機会欠如探し)をしてみましょう。

「考え方の抜け」という点で、最も重視しなければいけないのは「基本」ではないでしょうか？これが分かっている、出来ていないことが全ての元凶であることは間違いありません。ミスを繰り返す人は、まずそこを見直してみましょう。

8/29 廣瀨 泰久